

校番	44	ホームルーム活動	生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
----	----	----------	-------	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	黒瀬高等学校	校長	馬屋原幸孝	生徒指導主事	三村勝彦
-----	--------	----	-------	--------	------

取組事例名 『体育祭準備』

取組のねらい 『リーダー育成』

黒瀬高校は、「荒れ」と言われていた時代を持ち直し、近年は問題行動も極端に少ない落ち着いた高校へと変化していった。今後は、地域社会の問題解決や発展のために尽力する人材を多く輩出する学校へと進化していかなくてはならない、そのためにはあらゆる機会を通じて人をまとめることの出来るリーダーを育成していくことが必要と考えた。

取組の具体的内容 『生徒会の自立』

生徒による主体的な活動を発信する場所はやはり生徒会であろう。この発信元が「やらされている」感を持つと、学校全体がそのような雰囲気になりかねないので、生徒会会議を重ね意識の変化を促し自立へとつなげた。



☆生徒会会議の様子

取組の課題・創意工夫 『黒高レンジャーを活かす』

本校では、「黒高レンジャー」というボランティアグループがある。挨拶・美化・掲示・地域・花・旗掲揚など仕事別にグループ化されており、約 100 名が参加している。

この活動内容は生徒自らが企画・立案し、実践、振り返りを行っており、そうしたノウハウを生徒会が学び取り入れた。



☆レンジャー光景

取組の成果（効果）『主体性の向上』

体育祭は学年対抗という変則的な形をとっている。まずは、各学年を取りまとめるリーダー育成を目的としている。各学年を学年リーダーがまとめ、最終的に全校を生徒会がまとめていくことによって、役割分担が明確になった。また、係りにおいてもリーダーを生徒会が任命することで、より主体性が向上した。

その結果、体育祭前日には生徒自らが行進練習を提案し実行したり、リーダーからの講話も行われた。こういった変化は本校においてはとても革新的であり、生徒が自ら学校の変化を促している証と考える。



☆リーダーを先頭にした行進練習

今後の展開『リーダー育成の発展』

本校においては「リーダー育成」ということは非常に難しい問題である。成功体験をあまり持ちえない生徒が多いため、自信を持って誰かに語りかける、大きな声を出すといったことが苦手な生徒が多い。そういったことから、成功体験への導きが今後の課題となる。また、フォロワーとしての役割なども理解させ、一つの目標に向かってリーダーを中心として、個々が役割を果たし充実感や自己存在感を獲得させることを考えていきたい。

他校へのアドバイス『信じてやらせる』

このキーワードは昨年からのものですが、黒高レンジャー、学校行事等において、随分チャレンジする姿勢が見られていたように感じます。生徒には、『当たり前のこと+1をした時に人は大きく成長する。その結果については素直に受け入れる。』講話の機会を捉えて常に伝えていきます。このことは、進学にも大きな変化を見せて、進路に対してチャレンジする姿勢が見られるようになりました。放課後も暗くなっても学習する三年生が増え、その結果、国公立大学へ2名が合格しました。そういったリーダーとしての姿が下級生への何よりのメッセージとなっています。